

# 算命学中庸

## 【初年】 16回目

16回目の授業はこのページからです。

授業科目 しゆくめい みかた よ かた  
【宿命の観方・読み方】

【初年】 16回目 【宿命の観方・読み方】 01

**女性①さん・未婚の女性** 彼女の質問は「私に子供は生まれる  
でしょうか？」「私と子供のえにし縁はあるのでしょうか？」  
この2つです。

彼女は自分に子供が生まれるかを知りたいわけですから。そして子供  
が生まれたとすれば、自分と生まれた子供とえにし縁を知りたいわけ  
です。この事柄をことがら想定して……話しを進めてゆきます。

参考：想定〔ある一定の状況や条件を仮に思い描くこと〕〔ある状態を仮定すること〕

女性の生年月日をお訊きして宿命をだします。

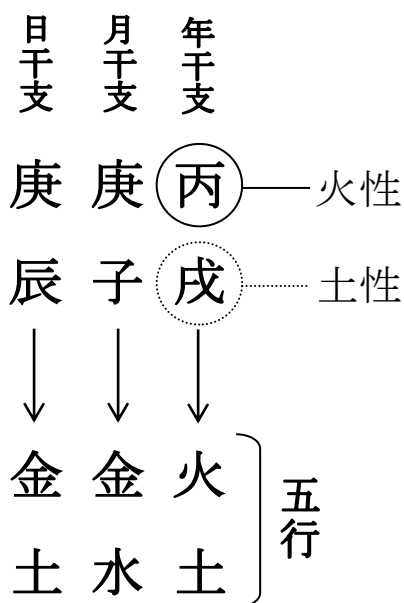
彼女の生年月日は〔2006（H18）年12月17日〕です。

＊ 宿命（1）女性① 2006（平18）年12月17日

	陰占の宿命	陽占の宿命（人体図）	大運
	庚 庚 丙	司禄星   天堂星	4 己亥
申	辰 子 戌	調舒星   調舒星   牽牛星	14 戊戌
酉	乙        辛	天印星   貫索星   天極星	24 丁酉
	癸        丁		34 丙申
	戊 癸 戊		44 乙未

☞ 陰占の宿命です。その説明をします。

宿命（2）女性①



天干	五行
丙	火性
庚	金性
庚	金性

地支	五行
戌	土性
子	水性
辰	土性

宿命を〔木性・火性・土性・金性・水性〕に書き改めます。

年干の「丙」は火性の（陽）です。「丙火 へいか」という。

月干の「庚」は金性の（陽）です。「庚金 こうきん」という。

日干の「庚」は金性の（陽）です。「庚金 こうきん」という。

女性①の宿命を五行に書き改めました。

宿命を〔五行〕に書くと〔木火土金水〕の質になります。

年支（戌）は土性です。（戌土 いぬど）といます。

月支（子）は水性です。（子水 ねすい）といます。

日支（辰）は土性です。（辰土 たつど）といます。

ねんかんし  
年干支は丙火の戌土（へいかのいぬど）

げっかんし  
月干支は庚金の子水（こうきんのねすい）

にっかんし  
日干支は庚金の辰土（こうきんのたつど）

このように  
五行〔木火土金水〕を  
付記しておぼえると  
よいですね。

へい                      こう                      いぬ  
丙は火性、庚は金性、戌は土性ということがわかります。  
あとあと占いをしやすくなります。

最初のうちは、キッチンと五行に書きあらわしたほうがよいとおも  
います。ノートなどに書いて練習してください。

**女性**Ⓐ 日干は「庚」です。彼女自身が「庚金」です。

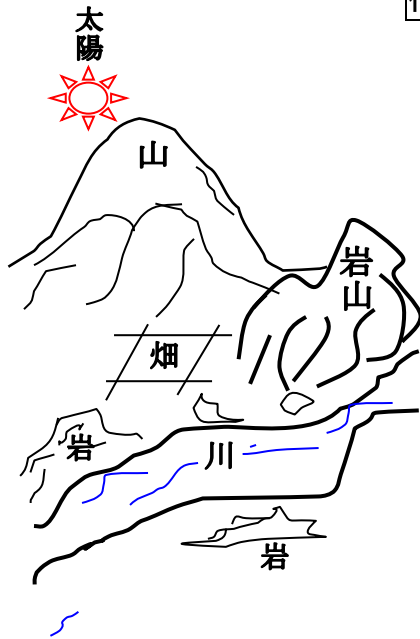
「庚金」自然界では岩石を意味しますから、彼女は岩山と  
いえます。

ものに例えれば（斧とか刃物）です。

五行になおしたら、この宿命を風景に描いて考えると、  
その姿が浮かびあがってきます。

☞ **女性(A)** の宿命を風景に描くとわかりやすいのです。

**宿命 (3) 女性(A)・風景**



庚金を陰陽でいえば、陽の金性ですから  
主体性のある大きな金性です。

それを<sup>いわやま</sup>岩山とか、<sup>がんせき</sup>岩石というふうに……  
物質にたとえるわけです。

この宿命は、<sup>へいか</sup>丙火（太陽）と、<sup>ねすい</sup>子水（川）も流れ、<sup>いぬど</sup>戌土がありま  
すから<sup>やま</sup>山があり、<sup>こうきん</sup>庚金2つは連なる大きな岩山ともいえます。  
そして<sup>たつど</sup>辰土（畑）が広がっています。

宿命の風景を描くとこのような感じになるでしょう。

<sup>げっし</sup>月支は季節を意味し、<sup>ね</sup>（子）は冬至の位置にあって真冬です。

田畑は<sup>しもぼしら</sup>霜柱が立っているかもしれません。

川は流れていれば、凍らずに済むでしょうが、川の表面は凍りつ  
いているかも知れません。

冬の太陽が<sup>て</sup>照っています。

女性<sup>Ⓐ</sup>の日干は「庚<sup>こうきん</sup>金」なので『岩山』といたしました。  
そして【この宿命の季節はいつなのか】ということが、  
とても重要になってきます。

☞【宿命の季節はいつなのか重要です】どの人物の宿命でも重要です。

宿命(4) 女性<sup>Ⓐ</sup> 生年月日【2006 (h18) 年 12月 17日】

日 月 年  
干 干 干  
支 支 支

庚 庚 丙

辰 子 戌

季節は月支で見ます

月支は  
季節を表す

(子) は冬の十二支なので季節は冬です。

誰でも生まれた月は (月支) で見ます。

季節をあらわすのは (月支) です。

月支に (子) がありますから、子<sup>ね</sup>月<sup>ねづき</sup>生まれになります。

子月は季節でいえば真冬です。

十二支は春夏秋冬の4季節に分類できます。

十二支の (亥<sup>い</sup>子<sup>ね</sup>丑<sup>うし</sup>) は、冬に分類される十二支でした。

女性は 12 月生まれなので、季節は冬生まれになります。

(詳細に観るときは、すべての「干支」を見て判断します)

(すべての「干支」を見て判断する) という意味は……  
算命学はその人物が生まれた月を(月支)で判断します。

**女性A** の月支は(子)ですから、この女性は真冬の子月に  
生まれたこととなります。(子)は真冬の十二支です。  
十二支盤で『冬至』の位置にあるのが(子)です。

女性の日干は「庚」です。つまり「庚金」です  
ここでは庚金を岩山にたとえています。

庚金は(陽)の金性なので、鉄塊といえますし、自然界で  
は、岩石とか岩山にたとえます。

そうしますと、**女性A** は「冬の岩山のような女性」というふう  
にいえます。

季節は真冬ですが、太陽の陽射しで、岩山はなんとか凍らないで  
いるかも……です。

自然のなかでは、そのような宿命であろうと想定するわ  
けです。

(子)の五行は水性です。子水です。

彼女は凍った水中に沈んでいる鉄塊ともいえます。

☞ 実際に占うときには、お客様の求める<sup>ことがら</sup>事柄に<sup>しょうてん</sup>焦点を合わせて、<sup>ようぼう</sup>ご要望に応えるため、算命学の技法をつかって鑑定していくわけです。

参考：事柄〔事の内容〕

参考：要望〔もとめのぞむこと〕

〔たとえば〕お客様が〔恋人のこと、結婚について知りたい〕ということなら、相手の生年月日が必要になります。

あるいは〔自分にどんな子供が生まれてくるのか知りたい〕とか〔適職について知りたい〕とか〔自分の金運を知りたい〕など、お客様のご要望はさまざまです。

☞ ここでは **宿命（3）女性①・風景** **宿命（4）女性①** を観て……女性の自然環境を想像するとよいでしょう。

日干「庚金＝女性自身」は、ものにたとえて<sup>いわやま</sup>岩山です。真冬の自然のなかに<sup>そび</sup>岩山が聳え、太陽が照っています。このような冬の自然界のなかで、岩山が栄えるためには、五行のなかでなにを必要とするのかを考えるわけです。そうしますと、ひとつには「<sup>てい</sup>丁（丁火 <sup>ていか</sup>）」が必要です。なぜかといえ、太陽は照っていますが、真冬の陽射しは弱くて寒いです。

岩山が凍りつかないようにするには、もう1つくらい、火性があったほうがよいのではないか……そんなふうに考えるわけです。

岩山が凍ってしまおうと……そこに生息する生き物たちが生息するために必要な植物・食物も凍りついてしまおうでしょう。

そうしますと、<sup>へいか</sup>丙火（ものにたとえて太陽）をたすける陰の火性の<sup>ていか</sup>丁火があれば、岩山にとっては有り難い存在です。

（丙火は火性の陽）（丁火は火性の陰）

また……庚金はものにたとえて斧とか刃物ですから、刃物の切れ味をよくするに<sup>かえん</sup>火炎が必要です。

（刀を鍛えるのに火炎で真っ赤に熱して叩いて鍛えます）

その意味もありますので「<sup>ていか</sup>丁火」は有り難いのです。

（暖かくするため）

丙火はものにたとえて太陽です。（丙火は火性の陽）

丁火は燃えている火、<sup>ひ</sup>暖をとるためのストーブにたとえてもよく、室内の灯りにもたとえます。（丁火は火性の陰）

☞ 鑑定の内容によってつかいわけます。

太陽の陽射しが弱ければ、真冬の岩山は凍ってしまい、自然界のなかで危険ともいえますし、何の役にも立たない存在になってしまうともいえます。

(真冬に太陽が照っていても、人間は暖房を必要とします)

冬の岩山のような女性にとって、なにが必要かと考えると、自分を暖めてくれる火性はありがたい存在です。

丁火 (燃えている火) と 丙火 (太陽) は有り難いのです。

☞ その太陽を宿命のなかで捜すと「丙火」があります。

まだ勉強していませんが……年支 (戊) の二十八元の中元に

丁<sup>てい</sup> という [蔵干<sup>ぞうかん</sup>] が入っています。

☞ 宿命 (5) 女性<sup>Ⓐ</sup> [2006 (h18) 年 12 月 17 日] 生まれ

庚 庚 丙——年干 (ねんかん) は 丙火 (へいか)

辰 子 戌——年支 (ねんし) は 戌土 (いぬど)

乙	辛	初元 (しょげん)	} 二十八元 (にじゅうはちげん)
癸	丁	中元 (ちゅうげん)	
戊	癸 戊	本元 (ほんげん)	

にじゅうはちげん  
二十八元のなかに入っている「干」を〔蔵干〕といいます。

年支（戌）の二十八元に入っている蔵干は〔辛金・丁火・戊土〕  
の3つです。月支（子）の二十八元の蔵干は〔癸水〕だけです。  
日支（辰）の二十八元に入っている蔵干は〔乙木・癸水・戊土〕  
の3つです。

- 二十八元表（にじゅうはちげんひょう）という表に記載されています。
- 【初年】 1回目【宿命の運命】 16頁の《小泉進次郎》を参照ください。

☞ 女性の日干は「庚金」で、彼女自身を意味します。

**女性**① 「私に子供は生まれるのでしょうか？」

「私と子供の縁はあるのでしょうか？」との質問でした。

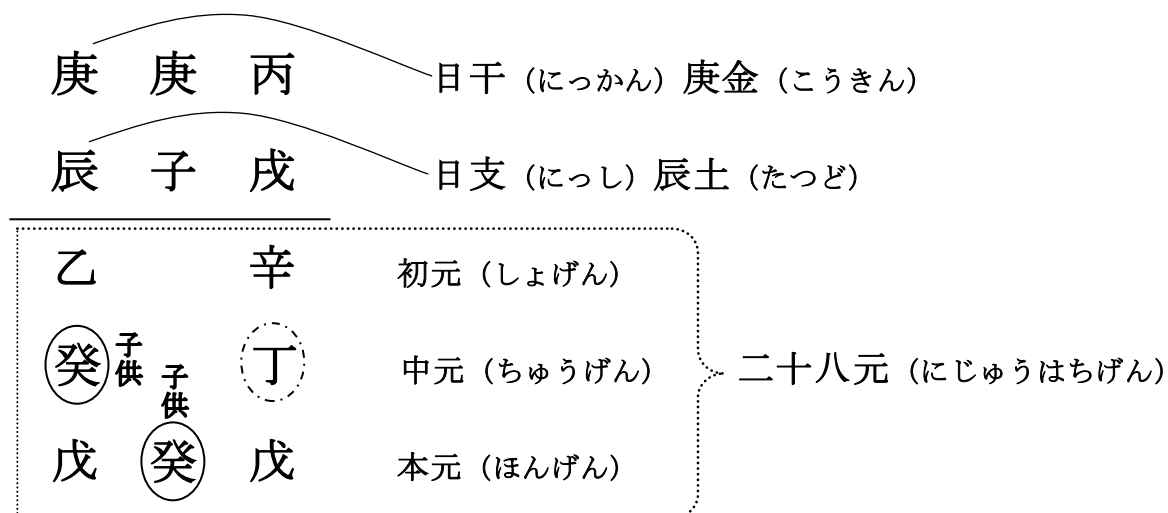
そこで、彼女の陰占宿命のなかに「子供がいるのか？」  
をみます。

子供をさがしますと、彼女の子供は（子）の二十八元の  
本元〔癸水〕と（辰）の二十八元の中元にいる〔癸水〕  
です。

**女性**① 彼女の宿命のなかに、子供は2人でていますから、  
女性は子供と縁があります。

⇒ 宿命（6）女性①

〔2006（h18）年12月17日〕生まれ



どうして 癸水<sup>きすい</sup> が子供なのかということについては、  
 まだ勉強していませんが「六親法<sup>ろくしんほう</sup>」という技法をつかいます。  
 日干「庚金」ですから（金→水）と水を生じています。  
 この姿は（女性が癸水を<sup>う</sup>生みだしている）と<sup>よ</sup>読むのです。

**女性①** は自分の宿命のなかに〔子供の干＝癸水<sup>かん きすい</sup>〕がありますから、『子供と縁がある』ということになります。

親と子の縁<sup>えん</sup>（親子関係）というのは、絡み合っています。  
 親にとって（あり難い存在なのか）（あり難くない存在なのか）  
 （育てやすいのか）（育てにくいのか）さまざまです。

それは子供にとってもいえます。

（あり難い親なのか）（あり難くないのか）さまざまです。

**鑑定側** お客様のご要望に応じてこたえをだすのですが、

『子供との縁』といってもさまざまにあるわけです。

既婚の女性がお客様で……実際に子供がおられる場合に、

「自分と子供の縁を知りたいのです」ということであれば、

占う側は『女性と子供の関係を訊くとよいですね』

〔たとえば〕女性と子供の関係はどのような状態なのか？

そこにはなにか問題があるのか？ などを訪ねるわけです。

☞ 話しを **女性①** にもどします。

**宿命 (3) 女性①・風景** をみると、川が凍りつくのをふせぐ

太陽はありますが、その陽射しを遮る山もあります。

山が太陽の陽射しを遮断すれば、川の水は凍ってしまう

でしょう。日干「庚金の彼女」を〔斧とか刃物〕にもたと

えますから、彼女にとって『水』の存在は困ります。

なぜかといえは……真冬の水は寒さが厳しければ、霰・

霰・雪になります。日干「庚金」の彼女が刃物だとすれ

ば、刃物が錆びれば役に立ちません。

庚金は陽の金性で癸水は陰の水性ですから、プラスとマイナスで

結びつきやすいのです。結びつけば庚金が錆びてしまいます。

刃物が錆びるといことは、庚金の身を削ってしまいます。

☞ **女性A** ⇒ 「私と子供の<sup>えにし</sup>縁はあるのでしょうか？」との質問  
でした。

☞ **鑑定側** ⇒ 生年月日をもとに女性の宿命をだしました。

女性の宿命はわかりましたけど、未婚の女性ですから……夫はい  
ませんし、子供もいませんから、人物の宿命はわかりません。

そうしますと、女性の宿命だけを観て、質問にこたえることにな  
ります。そこで宿命に子供がいるのかどうかを<sup>さが</sup>捜しました。

月支（子）本元に〔癸水〕があり、日支（辰）の中元にも〔癸水〕  
がありました。2つの〔癸水〕が子供だとわかりました。

☞ どうして〔癸水〕が子供になるのかといえば……。

日干は「庚金」ですから、（金→水）と<sup>しょう</sup>生じています。  
つまり、庚金が生じている癸水です。

この姿は（女性が癸水を<sup>う</sup>産みだしている）と読み解きます。  
このことは先ほども説明しました。

**女性A** の宿命のなかに〔子供の<sup>かん</sup>干=<sup>きすい</sup>癸水〕がありますか  
ら、「子供との<sup>えん</sup>縁がある」ということになります。

☞ 「私に子供は生まれるのでしょうか？」  
「私と子供は縁があるのでしょうか？」

その質問に応じて

女性の宿命に書かれていることだけを読んでいます。

女性①の宿命には、子供縁こどもえんがあると書かれていますが、その子供との縁が彼女にとって……（有り難い縁なのか）（有り難くない縁なのか）ということにもなってきます。

そうしますと、彼女は「庚金=刃物」で、子供は「癸水」ですから、「彼女が子供との縁えんを篤あつくすればするほど、自分が錆さびてしまいます」つまり、彼女自身の運勢を落とします。と書かれているのです。これがこたえです

このようなこたえになりましたが……母親に子供縁があれば、子供を養育げんする役目は厳として存在します。（するしないは母親次第ですが、厳として存在します。）参考：厳として〔おごそかにして犯しがたい〕

ここでは未婚の女性①の宿命に書かれている陰占いんせんの干支かんしだけを観てのこたえです。しかし、彼女が結婚すれば、結婚した夫の宿命、子供が生まれれば、生まれた子供の宿命もあるわけです。生まれてきた子供が、夫にとっては運勢のうえで有り難い存在ということもあるのです。

そうしますと女性①が結婚のちした後に、家族の宿命を観たときに、こたえが異なることになります。

こたえが違ってくるのは当然なのです。

それは彼女ひとりだけの運勢だけではないからです。

家族の運勢というのは「禍福かふくは糾あざなえる縄なわの如しごと」なのです。

☞ 彼女にとって (ありがたいもの) (ありがたくないもの) があります。 ※ここでは母親と子供との関係については除外します。

🔍 **宿命 (7) 女性(A)・有り難い火性** [2006(h18)年 12月 17日]

	2027	年運	大運				大運	
		丁	戊		庚	庚	丙	4 己亥
申		未	戌		辰	子	戌	14 戊戌
酉					乙		辛	24 丁酉 <b>大運天中殺</b>
					癸		丁	34 丙申
					戊	癸	戊	44 乙未

2027年 12月 17日がくると **女性(A)** [21歳] です。

そして、[24歳] からは大運天中殺に入ります。

**宿命 (7) 女性(A)・有り難い火性** をみてください。

10頁⇒まだ勉強していませんが……年支 (戌) の二十八元の中元に

**丁** という [蔵干] が入っています。と書きました。

年支 (戌) の二十八元の蔵のなかにある [丁] の年がまわって来ると、**女性(A)** にとってはありがたいのです。

なぜなら、太陽を補佐する丁火がまわってくる年がくれば、『自分が凍りつかない』と考えることができます。

ところがです、**女性A**にとってあり難い丁火(火性)の年<sup>とし</sup>がまわって来ても、そのありがたい火性をやっつけてしま<sup>と</sup>う(火を剋す・火を消す)ものがあると困ります。

それは水性です。火に水をかければ消えてしまいます。

水性は(水→×火)と「丁火」を<sup>ていか</sup>剋<sup>こく</sup>します。

そうなる……ありがたい「丁火」がせっかくまわってきたのに、「丁火」のチカラを衰えさせてしまう。

そういう事態も起こり得ます……注意が必要です。

【初年】の課程は算命学の基礎です。

**女性Aさん** その質問におこたえするというこ<sup>と</sup>で、話しを進めてきました。

参考にしてくださればとおもいます。

続けます ➡

**宿命（8）女性①・宿命と大運**

2006(h18)-12-17 生まれ

陰占と陽占の宿命を書きました。

	庚	庚	丙		司禄星	天堂星	4 己亥
申	辰	子	戌	調舒星	調舒星	牽牛星	14 戊戌
酉	乙		辛	天印星	貫索星	天極星	24 丁酉 34 丙申
	癸		丁				
	戊	癸	戊				44 乙未

**宿命（9）女性①・年の天中殺**

14歳からの大運は「戊戌」

	2028 年運	大運	庚	庚	丙
申 酉	戊 申 年運天中殺	戊 戌	辰	子	戌
			乙		辛
			癸		丁
			戊	癸	戊

**女性①** 2028年2月4日から「戊申」です。年の天中殺に入ってから2029年2月3日から「己酉」です。天中殺は2年間続きます。

そして、〔24歳〕の誕生日からは、さるとり 申酉のたいうんてんちゆうさつ 大運天中殺に入ります。

**女性①**の場合は、年の天中殺、そして大運天中殺へと続きます。それゆえ、これらのことを考慮して、ご自分の進路なり、将来の方針を立てるとよいでしょう。

もうひとつは、母親が活着ているうちに、物事を済ませておくともよいともいえますが、それらのことについては注意して配慮する必要がありますが、宿命内の『場所』で両親の存在を観ることもできます。

☞ どなたの宿命にも……人物の場所があります。

**宿命（9）女性①・宿命内の人物の場所**の説明で、人物の観方を参考にしてください。

**女性①**の場合は「私に子供は生まれるでしょうか？」

「私と子供とのえん縁を知りたいのです？」という質問ですから、ご本人と子供とのえにし縁について話を進めてきました。

彼女の宿命内にいる子供は「親と比和の関係」です。 ➡

☞ 日干「庚金」は **女性①** 自身です。といましたが、宿命内にある『場所』がもつ意味合いがあります。

**宿命（10）女性①・宿命内の人物の場所**

自分自身	子供の場所	父親の場所	年干「 <sup>へい</sup> 丙」は父親の場所
庚	庚	丙	年支（戌）は母親の場所
辰	子	戌	月干「庚」は子供の場所
配偶者	母親の場所		月支（ <sup>ね</sup> 子）は自分の立地で季節
			日支（ <sup>たつ</sup> 辰）は配偶者の場所

このように人物の場所があります

（月支）については、あとあと詳しく勉強するようになります。

**宿命内にある人物の場所は、どなたの宿命でもおなじです**

**女性①** の子供は「庚と庚」母親と比和の関係ですから、母親と自分を対等に見ようとする子供といえます。

【初年】の課程は算命学の基礎ですが、このような観方もします。このように「人物の場所」として、みてゆくようにもなります。

☞ 鑑定のときはつかいます。

🔍 **宿命（7）女性①・有り難い火性** 15頁

🔍 **宿命（9）女性①・宿命内の人物の場所** 20頁 をみますと……

「丙火（太陽）」が年干の父親の場所にありますから、父親を太陽の陽射しと考えることができるわけです。

冬の岩山である **女性①** にとって、太陽の陽射しに相当する（父親）の存在はありがたいのです。

母親の場所（年支）にある戌土は（土→金）と、**女性①** を生じてくれる関係ですから、彼女にとって両親（父と母）の存在はありがたいのです。（生じる＝相生関係）

このように観ることもできます。

⇒ **女性①** の宿命に限ったことではないのです。

〔たとえば〕 **②** という女性、あるいは男性の宿命内にいる両親が（ありがたい存在）なら、ご両親が生きているうちに、結婚とかをしたほうが良いといえます。

できることなら、結婚しても両親と一緒に住んだほうがよいともいえます。しかし反対に……両親と一緒に住まないほうがよい宿命もあるのです。

それゆえ……できることなら、本人と結婚相手の宿命、そして、ご両親の宿命を<sup>み</sup>観るとよいわけです。

☞ どなたでも結婚すれば、女性は「妻」になり、結婚相手の男性は「夫」になります。

当然……夫の宿命が妻に影響を与えますし、妻の宿命も夫に影響を与えます。

子供が生まれれば、子供の宿命が両親に影響しますし、両親の宿命が子供にも影響します。

そうしますと、結婚して子供が生まれたら、子供をどのように育てたらよいのかといえ、子供の宿命を観て判断することになります。

そのときは、母親の宿命、父親の宿命、子供の宿命を観ます。子供に兄弟がいれば兄弟の宿命も観ます。

祖父母が生きていて、一緒に住むようであれば、祖父母の宿命も観ることにもなるでしょう。

☞ **女性A** は「私と子供との縁を知りたいのです？」ということですが、未婚女性ですから、夫の宿命・子供の宿命もないわけです。それゆえ **女性A** だけの宿命を読んだわけです。

宿命を読むと……子供とべったりして縁<sup>えにし</sup>を篤<sup>あつ</sup>くすると、自分が錆<sup>さ</sup>びてしまう恐れがあります。と書いてあったわけです。

重複しますが……庚金の **女性A** にとって、子供は水性です。庚金が刃物であれば水性は困ります。特に癸水はこまります。ということは「子育てに苦勞するでしょう」といえます。

しかし、子育ての苦勞から逃げたら……あとあと彼女に わざわい 禍 が振りかかってくる。その わざわい 禍 はさまざまです。彼女自身の将来を はめつ 破滅させるような禍もあります。それは個々の宿命によるわけです。

⇒ **女性A** の場合……別の想定もできますよ。

さきほど、ちらっとそのことに ふ 触れましたけど……。

〔たとえば〕 **女性A** にとって、子供は育てにくい、子育てで苦勞します。そのように女性の宿命に書かれていても、彼女が結婚して、結婚した夫の宿命には、「夫にとっては運勢的に子供が有り難い存在」と書かれていることもあります。そうすると、とうぜん鑑定 ちが のこたえは違ってきます。このようにさまざまな観方があるわけです。

占うときには、技法によって いろいろ 色々な観方があります。それらの技法は、順序を追ってこれから勉強していくようになります。

☞ 鑑定で個々の宿命を観たときに……自然界のなかでは（どのような存在なのか……）（どういう環境のなかに宿命が存在しているのか……）これらの宿命のおかれている環境・事象を想定して、その印象を風景に描くと、占いがしやすくなるとはいえます。

“絵を描いて占う”ということではないですよ

宿命を観たときに、自然界のなかではこのような感じの状況があるのでは……ということ想像する訓練をしておくと、あとあと役に立ちます。

⇒ 小泉純一郎氏の宿命は、自然の風景にするのは難しいです。

そこで宿命に五行を付記して説明します。

✽ 小泉純一郎 1942(s17)-1-8 宿命(1) 小泉純一郎

日干	日干支	月干支	年干支
	辛	辛	辛

「<sup>しん</sup>辛」は小泉さんの日干です。

日干は小泉純一郎自身を意味します。

子	酉	丑	巳
	↓	↓	↓
丑			

金	金	金
金	土	火

左記の五行になります。

金・金・金・金 ⇒ 金性だらけです。

金性が4つもあって、火性と土性があります。

小泉さんは、木性が1つもありませんし、水も1つもありません。

金性だらけで、とても片寄っていますけど、これは宿命の1つの特徴です。

(片寄っている宿命) (片寄っていない宿命) そのどちらがよくて、どちらが悪い、ということはないのです。

このことは勉強していくとご理解できます。

宿命の〔片寄り〕でいえるのは、片寄った宿命の人は、片寄った生き方をすることが、宿命どおりということになります。

片寄った生き方に向いていて、それが宿命通りです。

片寄った宿命というのは、言葉をかえれば……。

### **バランスが悪い宿命**

バランスが悪い宿命だから、悪いとは決まっていません。なぜかといえ、このような宿命の人物は、「バランスが悪いときに必要とされる」という意味があります。

**バランスが悪い宿命 ⇒ バランスが悪いときに必要とされる**

そのような運勢のもち主なのです。

〔たとえば〕 バランスの悪い宿命の人が、会社に勤めてふつうのサラリーマンだとします。

会社の存続という意味では、経営が順調に進んで好調な時期と……反対に借金が増えて会社のバランスが悪くなる時期とかもあるでしょう。 ➡

さまざまな宿命のなかには、星が片寄ってバランスの悪い宿命もあるわけです。

そのような宿命は、会社経営のバランスが悪くなって、会社そのものが傾きかけて来ると出世するとかです。

もともとバランスが悪いですから、なにかの災害とか、病気の蔓延<sup>まんえん</sup>とか、戦争とか、国全体が不安定でバランスが崩れている状況にも対応できるわけです。

そのような時期になると宿命がうごいて生きてきます。

釣り合いのよい宿命の人は、安定していて、調和がとれている状況のほうが、チカラを発揮できます。

会社が順調な状況のときに出世します。

バランスがよい宿命なのに、バランスの悪い会社に入社してしまうと、宿命からはずれることになります。

そのような環境では、宿命そのものを生かすことはできません。

☞ バランスのよい宿命の人は、安定している環境のほうが適合します。そのほうが成功します。

☞ バランスが悪い宿命の人は、バランスが悪い・不安定な環境のほうが向いています。そのほうが成功します。

☞ 小泉さんが総理のときには、日本の<sup>こくせい</sup>国政はバランスが悪かった時代です。参考：国政〔立法、司法、行政のすべてを含む〕

小泉さんが首相になった頃は、景気もよくないし、政治家もつぎつぎと逮捕されてしまうとか、政府の借金も膨らみ、さまざまな問題が山積み状態で、不安定な時期であったといえるでしょう。

そうしますと、日本が比較的安定していたら、小泉さんが首相に選ばれたとおもいますか……どうでしょう。

日本の国政の推移が順調にうごいている時期であれば、国民が彼を圧倒的に支持するということはなかったはず  
です。

結果論ですが、小泉さんの政策は（よかったとか）……

（悪かったとか）さまざまな御意見がありますが、当時の日本にとって、片寄った宿命の持ち主が総理になった  
ということはよかったと考えられます。

そうでなければ“改革”はできないといえます。

小泉さんは、自分の宿命があてはまった時期に総理大臣  
になったといえるでしょう。

✽ 小泉純一郎 1942-1-8

宿命（2）小泉純一郎

辛 辛 辛

宿命を読む順番は「辛巳」「辛丑」「辛酉」

子

酉 丑 巳

「しんきんのみ」「しんきんのうし」「しんきんのとり」

丑

癸 戊

宿命を読むときは、年干支、月干支、日干支の

辛 庚

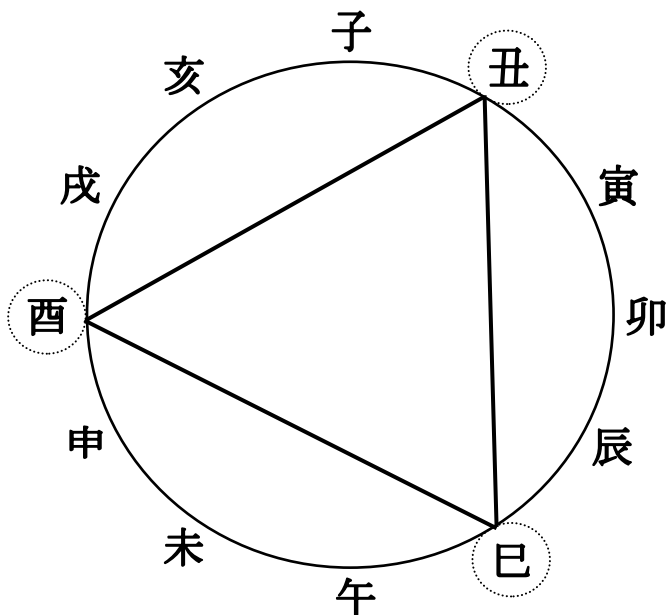
順序で読みます。

辛 己 丙

ね うしてんちゅうさつ  
子丑天中殺

地支をみると <sup>とり</sup>酉 <sup>うし</sup>丑 <sup>み</sup>巳 です。

宿命（3）大三合会局の三角形



小泉さんの宿命は <sup>み</sup>（<sup>とり</sup>酉 <sup>うし</sup>丑）の <sup>だいさんごうかいきょく</sup>大三合会局です。

とても大きな器のもち主です。

政治家のなかで、大三合会局をもつ宿命の人物はほかにいません。宇宙盤というのがあります。そのなかで最大面積を占める三角形が大三合会局の宿命です。

それだけに「非常に生きづらい」のです。

そこが変人といわれるゆえんです。

小泉さんとおなじ生年月日の人はたくさんいますけど、ふつうの生き方では、この宿命を消化できません。

安定している時代においては、活躍できない宿命といえます。つまり、動乱期に活躍できる宿命です。

ある技法をもちいることで、彼に影響を与えている先祖の靈魂の存在を知ることができます。

本人もその影響を受けていることになります。

小泉さんは「生月中殺」という宿命中殺をもっています。

生月中殺には“家系の質を変える役目を背負う”という意味があります。

旧来のやり方を一変させる政治手法が合っています。

これだけ大きな器は、市長とかでは宿命がもつチカラを發揮できないのです。

宿命を活かせるという時代背景がなければ、総理になることは出来ないのです。

一国を動かすことで、宿命が生き生きと生きてきます。

どんなに素晴らしいと想<sup>おも</sup>える宿命でも、時代が味方しなければ、宿命どおりに生きることは非常にむずかしい、どちらかといえば「できない」と言い切れるのです。

坂本龍馬にしても……時代背景が味方しています。

小泉さんのように特殊な宿命の人と結婚するには、相手の女性もそれなりの宿命でなければ、添<sup>そ</sup>い<sup>と</sup>遂げることは困難です。

＊ 田中角栄 1918(大7)-11-14 1993-12-16〔75歳没〕

						1 丁巳	
				玉堂星	天胡星	11 戊午	
寅	亥	辰	午	調舒星	玉堂星	車騎星	21 己未
				天恍星	牽牛星	天庫星	31 庚申
						41 辛酉	
						51 壬戌	
						61 癸亥	
						71 甲子	

＊ 佐藤昭子 1928(昭3)-8-5 2010-3-11〔82歳没〕

						10 戊午	
			(丁) 己 戊	調舒星	天堂星	20 丁巳	
申	丑	未	辰	鳳閣星	鳳閣星	調舒星	30 丙辰
				天庫星	調舒星	天南星	40 乙卯
						50 甲寅	
						60 癸丑	
						70 壬子	
						80 辛亥	

日干(丁火)のまわりはすべて土性です。

☞ 変わった宿命ということでは……。

田中角栄さん、そして、<sup>えつざんかい</sup>越山会<sup>じょおう</sup>の女王・<sup>さとうあきこ</sup>佐藤昭子さんの宿命を参考までに記載しました。

佐藤昭子さんの宿命は「<sup>こつにくぶんり</sup>骨肉分離」の宿命です。

田中角栄さんは算命学でいう「<sup>うんりゅうがた</sup>雲龍型」の宿命です。

田中角栄さんの宿命は、算命学の〔例題〕にでてきます。

【初年】 16回目【宿命の観方・読み方】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 17回目【色について】